

知床連山における携帯トイレの利用状況と今後の対策について

中村 仁（環境省 ウトロ自然保護官事務所）

概要

環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町は、平成 20 年度から、知床連山の登山者に対し、携帯トイレの使用の呼びかけを続けているが、登山口でのアンケート調査によると、携帯トイレの推進について知っていた登山者は 3 年間をとおして 60～65%であること、実際に携帯トイレを持参していた人も 30～40%であること、携帯トイレの販売と回収の実績は 3 年間で特に傾向が認められなかったことから、携帯トイレの推進活動の認知度がほとんど変化していない。これは、多くの登山者が知床を訪れるのが初めてであり、直前まで携帯トイレの推進について知らない可能性があり、一層の普及啓発が必要となる。

一方で登山者の 7 割以上が、携帯トイレ用ブースがあれば、携帯トイレを使用すると回答しており、携帯トイレの使用自体への抵抗はあまりないと推察される。そのため、携帯トイレ用ブースを設置した場合の維持管理体制等の構築に向けてについて専門家や関係機関・者において検討を進めていく予定である。

平成 20～22 年の利用者意識調査概要

平成 20 年度から始まった携帯トイレ関連の調査の中で、毎年利用者にアンケート調査を行った。平成 21 年度は 5 日間にわたる携帯用トイレブースの試験的導入があったため、導入前と導入中にそれぞれ利用者アンケートを実施したが、平成 22 年度は 24 日間の携帯用トイレブースの設置期間中を中心にアンケート調査を行なった。表 1 が各年度におけるアンケート実施概要である。いずれも 7 月から 8 月の登山シーズンの土日を中心に行なったアンケートであるので、時期的な条件は同じであるが、天候などにより入込み数やトイレの利用などに影響があることは避けられない。

なお、3 年間のアンケートでは、トイレブース使用に関する質問以外の設問（「携帯トイレの利用促進の認知度」や「携帯トイレの持参率」などの設問）は全て同じとして比較検討を出来るようにした。

表 1 平成 20 年～22 年の携帯トイレに関するアンケート概要

年度	アンケート期間	有効 サンプル 数	備考
H20 年度	7/19－8/3 の 9 日間	338	トイレブースなし
H21 年度導入前	8/8-9 の 2 日間	86	トイレブースなし
H21 年度導入中	8/14-16 の 3 日間	105	ブース 2 基設置期間：8/15-17
H22 年度設置中	7/30－8/16 の 9 日間	302	ブース 2 基設置期間：7/30-8/22

平成 20～22 年の被験者の属性比較

回答者の性別については、3 年間では多少の差はあるが、男性が 6 割～7 割、女性が 3 割～4 割というのが、知床連山の利用者の性別割合である。

年齢別に見ると 3 ヶ年とも 50 代以上の年齢層が半分以上を占めており、中高年の利用者が全国的に多いといわれているが、知床連山でも例外ではない。

アンケートは、岩尾別登山口への下山者を対象にしているが、95%以上が岩尾別登山口からの日帰り登山者であった。これは中高年登山者が多いこと、また、道道の工事の為に連山の縦走がやり難くなっていることなどが原因と推測される。

登山回数では羅臼岳登山が初めての人が 3 ヶ年を通じて 7 割程度であることがわかった。さらに登山の同行者を尋ねてみると、半数近くが友人・家族との登山である。登山ツアーは平成 20 年には 18%あったが、平成 21 年～22 年にかけては 3%と落ち込んでいる。この理由は不明である。

また、訪問者の 3 割～4 割が道内からの訪問で残りが道外からの登山者である。

これら 3 ヶ年のサンプルの属性を比較してみると、傾向は毎年同じであり、アンケート調査の結果は 3 ヶ年で比較・検討することが可能である。

平成 20～22 年の利用者意識の比較

「羅臼岳で携帯トイレ使用の呼びかけを知っていたか？」という問いに関しては、平成 22 年も過去 2 年間と同じような傾向を示しており、知っていた人は 3 年間を通して 60%から 65%程度でほとんど変わっておらず、認知度が向上しているとは早急に言えない。

事前に情報を入手していた利用者の割合は、3 年間をとおして同じようであったものの、携帯トイレの促進に関する情報の入手方法に関しては、3 年間では少し傾向が異なっており、年を経る毎に、ホームページ、リーフレット、雑誌および登山用品店などメディアを介しての情報入手の割合が大きくなっているようである。しかしながら、全体としての認知度の押し上げには至っていないことから、さらに周知をする活動の継続が望まれる。

携帯トイレの所持について尋ねた結果によると、導入から 3 年が経過した今でも、相変わらず 60%以上の人々が携帯トイレを所持せずに登山を行なっていることが分かった。これは、先の設問での携帯トイレの推進活動の認知度が 3 年間あまり変わっていないこととも一致する。

登山者の中で、登山中に用足しをした人は平成 20 年度には 59%おり、平成 21 年度には 42～45%、22 年度には 47%であった。また携帯トイレを使用したのは、平成 20 年度で全体の 13%（用を足した人からすると 22%）、平成 21 年度で全体の 13%（用を足した人からすると 29%）、平成 22 年度で全体の 15%（用を足した人からすると 32%）であった。携帯トイレは使ったがブースでは用足ししなかった人は全体の 8%（用を足した人からすると 17%）でこの結果は、3 年間をとおしてほぼ同じであった。

こうした設問の回答は、実施年によってアンケート期間中の天候などに大きく依存するため一概には、携帯トイレの利用が促進されたかどうかの判定は難しいもののアンケートを見る限りでは変化はない。こうした傾向を知るには毎年のアンケート調査よりは隔年調査で長期にアンケート調査を行なう事が全体の改善傾向などを知るうえでは必要と考えられる。

平成 21・22 年の携帯トイレ用ブースへの利用者とその意識

平成 21 年度には、弥三吉水と羅臼平に 8 月 14 日～16 日までの 3 日間、平成 22 年度には、弥三吉水と銀冷水に 7 月 30 日～8 月 22 日の 24 日間、テント型の簡易トイレブースを設置し、使用状況とその意識調査を行った。

ブース内に設置された手押しカウンターの累計数字から、平成 21 年度と平成 22 年度で実際に携帯トイレ用ブースを利用したのは、平成 21 年度では 3 日間で 8 名、平成 22 年度は 24 日間で 50 人であった（表 2）。そのうちアンケート実施中にブースを利用した人が回答したのは、平成 21 年度で 8 人中 8 名、平成 22 年度では 50 人中 22 人であった。

平成 22 年度においては、3 週間の設置で、トイレブース利用者は手押しカウンター数字で 50 人はいたものの、アンケート調査ではそのうちの半数の 22 人しかキャッチできていないので、サンプル数は小さいが前年と比較することで、ブース利用者の意識を推定することは可能と考える。

実際に携帯トイレ用ブースを使用した人についての感想をまとめたところ、平成 22 年度の 22 人では、多くが、概ね携帯トイレ用ブースに関しては肯定的であり、これは平成 21 年度の 8 人のブース利用者の時の肯定的な感想と、ほとんど変わらない結果であった。

携帯トイレは使用したが、ブースは利用しなかった人にその理由を尋ねたところ、その一番の理由は、近くに携帯トイレ用ブースがなかったからという理由が最も多かった。

試験的に導入した今回のような携帯トイレ用ブースもしくは、利尻で使用されている携帯トイレ用小屋式ブースが知床連山にあれば、携帯トイレを使用するであろうと答えた人は平成 21 年度で 7 割近く、平成 22 年度で 6 割近くであった。このことは、潜在的に携帯トイレを使用しやすい環境を整えば、利用者は抵抗なく携帯トイレを使用する方向に向くのではないかと期待されることに加え、携帯トイレが知床連山では促進されているとの認識が進めばさらに多くの利用者が携帯トイレを利用することが期待できる。

表 2 平成 21・22 年の携帯トイレブース使用者（ブース内の手押しカウンターによる）

年度	ブース設置期間	機関中の登山者	2ブース利用者計	備考
H21 年度	8/14-16 の 3 日間	124 人	8 人	内アンケートに 8 人回答
H22 年度	7/30-8/22 の 24 日間	1,440 人	50 人	内アンケートに 22 人回答

アンケート以外での利用者からの意見

アンケート調査時等に、利用者であるガイドや登山者などから調査員が声掛けされて、そこで言われた意見を以下に集約した。この意見は、調査手法を当初から確定して行なったものではないので、意見に偏りがあるかもしれない。しかし、利用者から、積極的に話しかけられて言われた意見であるので、利用者の切なる意見とも考えられるため参考意見として列記した。

これらの意見から伺えることとしては、ツアー登山者はツアーガイドに誘導されて携帯トイレを利用する機会が多そうであり、一方で未組織の登山者は装備および携帯トイレの準備もままならない状態であろうとの推測ができる。

さらに携帯トイレブースに設置された手押しカウンターは、「汚そう」との理由で押されなかった場合もあったかも知れず、今年度の手押しカウンターの50人という数字は、実際の利用者よりも少ない可能性がある。

表3 アンケート以外での利用者からの意見（参考意見）

No.	意見提供者	意見内容
1	山岳ガイド (道内)	携帯トイレブースが設置されていなければ、携帯トイレを利用させるのは難しい。プライバシーが確保されないので進めにくい、また、植生部への踏込み問題などを顧客に説明して理解してもらうのに労力がかかり、必ずしも理解されない。
2	自然ガイド (町内)	携帯トイレの手押しカウンターであるが、手も洗わないで触ったかもしれないカウンターは触りたくないなので、押さなかった人もいる。
3	森林管理署グリーンサポートスタッフ	4人がトイレブースを使ったのに、その後カウンター見ると増えていなかったなので、4人分押しておいた。
4	ツアー登山客	カウンター、用が済んだらすっきりしてしまっ、出る時には忘れそう。
5	一般登山者	トイレブースを利用しようとしたが、携帯トイレがストックしてなかったので使わなかった。
6	一般登山者	ブースの外には「ご自由にお使いください」と表示しているが、携帯トイレがなくなっていて使えなかった。
7	一般登山者	トイレットペーパーなくなっていた。
8	一般登山者	ここ（羅臼岳）だけやっても無駄ではないか。

9	ツアー登山客	地元（北海道）の登山者は携帯トイレを全然使っていないのではないか？
10	ツアー登山客 (道外)	携帯トイレはいつも持ち歩いていたが使うのはここ（羅臼岳）が初めてだった。
11	ツアー登山客 (道外)	利尻岳で携帯トイレを持たされたが使うのはここ（羅臼岳）が初めて。
12	一般登山者 (道外)	(携帯トイレの取り組みは) さすが世界遺産知床だ。
13	ツアー登山客	自分たちは携帯トイレを使っていたけれど、個人の登山者は全然使っていない。
14	一般登山者	携帯トイレの取り組みは、世界遺産になったからか？
15	ツアー登山客	ガイドがついているツアーは携帯トイレを使っているが、ガイドがついていないと使われていない。
16	道内ガイド	ツアー登山ではガイドや添乗員が携帯トイレの使用の有無、タイミング、場所も決定していく場合が多く、徹底されている場合が多い。一方で、個人登山者、いわゆる無組織登山者の場合、トイレに関する知識やマナーを知らない場合が多い。
17	道内ガイド	恒常的に登山をしておらず、登山装備も充分でない未組織の登山者の場合、携帯トイレそのものを知らないようである。

利用者意識調査のまとめ

平成 20～22 年度で行った 3 年間の利用者へのアンケート結果から、以下のようにまとめられる。

- ①3 年間で登山者に対する携帯用トイレへの認識が改善されたかは、アンケートの結果では判然としない。
- ②実際問題として、知床への登山利用者が携帯トイレを携行していたか、また実際にそれらを使用したかにおいても、この 3 年間で大きな改善が見られたとは言えない。
- ③この主な理由として考えられるのは、多くの登山者が知床での登山が初めての登山者であり、多くが登山道入り口まで携帯トイレの推進を知らないという事実がある。
- ④用をたした登山者の割合は、3 年間を通じて、4 割～6 割でこの数字は天候に大きく左右されたと考えられる。
- ⑤携帯トイレブースを設置した 24 日間でトイレを使用したのは 50 人（手押しカウンター数字）であった。この中の 22 人がアンケートに答えているが、アンケートの回答者ベ

ースでいうと、トイレブースを利用した者は登山者全体の7%、用を足した人の15%に当る。また、ブース以外の場所で携帯トイレを使用した人は23人で、登山者全体の8%であり、用足しをした人の17%にあたる。この数字は昨年度と余り変化はない。

- ⑥アンケートを通してたずねた、携帯用トイレブースを使用した22人の使用の感想は概ね良好であった。一方、ブース以外で携帯トイレを使用した23人についても多くが、携帯トイレブースが近くにあればそれを利用したと答えている。
- ⑦登山者の6~7割近くが、携帯トイレ用ブースがあれば、携帯トイレを使用すると答えており、従来のように携帯トイレ使用そのものへの抵抗はあまりないと思受けられる。
- ⑧アンケート以外での利用者の声から、ツアー登山者はツアーガイドに誘導されて携帯トイレを利用する機会が多そうであり、一方で未組織の登山者は携帯トイレへの認識もままならない状態であろうとの推測ができる。

課題と今後の動き

(1) 利用者へ普及啓発の強化

調査結果からは、携帯トイレの普及が開始されてから、3年間で登山者に対する携帯用トイレへの認識はそれほど改善されていないとの結果から、一層の普及啓発の強化を進める必要があると考えられる。

(2) 携帯トイレブースの管理体制の構築

携帯トイレブースがあれば携帯トイレを使用するという利用者が6~7割いる一方で、平成20年度の調査結果から携帯トイレブースはきれいに、正常にメンテナンスされているべきだという意見の人は、7割にのぼることを考え、現在、ブースを設置した場合の維持管理体制等について専門家や関係行政機関、地元関係団体で構成される懇談会で議論を行っており、今後も管理体制の構築に向けて継続して検討を進めていく予定である。